

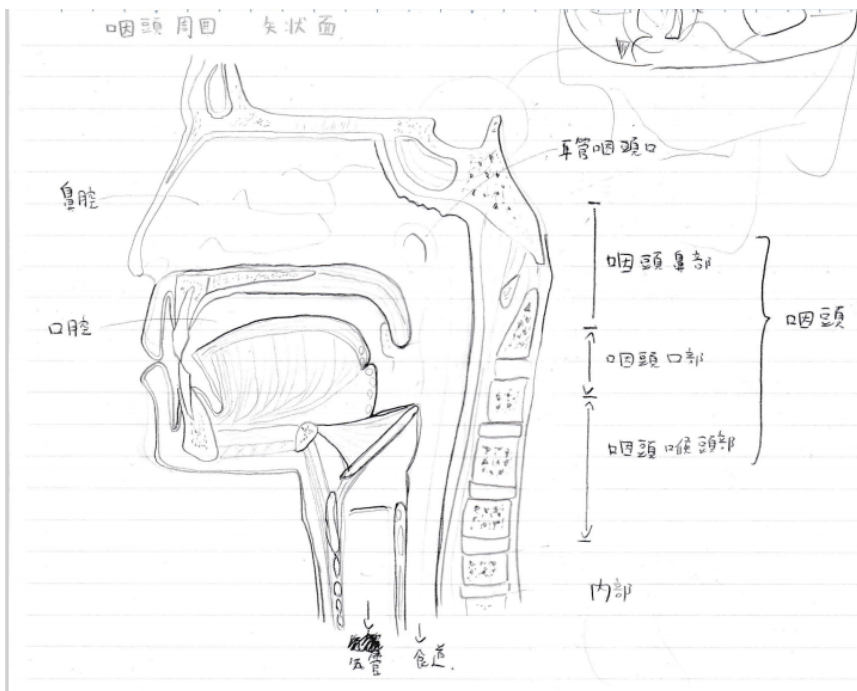
咽頭について

古田万紀子

咽頭(pharynx)とは、筋と筋膜でできた半円柱状の管で、上方で頭蓋底に、下方で食道に固定されている。弧が背中側である。頭部の口腔および鼻腔と頸部の喉頭および食道の間にある。

咽頭内部について

咽頭は、鼻腔につながる咽頭鼻部(nasopharynx)、口腔につながる咽頭口部(oropharynx)、喉頭の後方にある咽頭喉頭部(laryngopharynx)の3つに大きく分けられている。



咽頭腔は、空気と食塊の共通の通路となっていて、食塊が気管に入らないようにするための仕組みが存在している。

咽頭鼻部は、鼻腔と後鼻孔を経てつながっている。左右の壁には耳管咽頭口があり、ここで耳管とつながっている。軟口蓋の高さよりも上にあり、耳管咽頭口は硬口蓋よりも後方で少し高い位置にある。咽頭口部との間に咽頭峡部が存在する。咽頭峡部には咽頭壁の粘膜ヒダがあり、このヒダの中には口蓋咽頭括約筋が走っている。

咽頭口部は、口腔と口峡部を経てつながっている。咽頭口部は口腔の後方にある咽頭腔で、軟口蓋の下方、喉頭蓋上縁よりも上方の部分である。口峡部の下方の咽頭口部前壁

は、舌の後方 1/3 領域の上部(舌の咽頭部)が作っている。咽頭口部の側壁には口蓋扁桃という大型で卵円形のリンパ様組織がある。

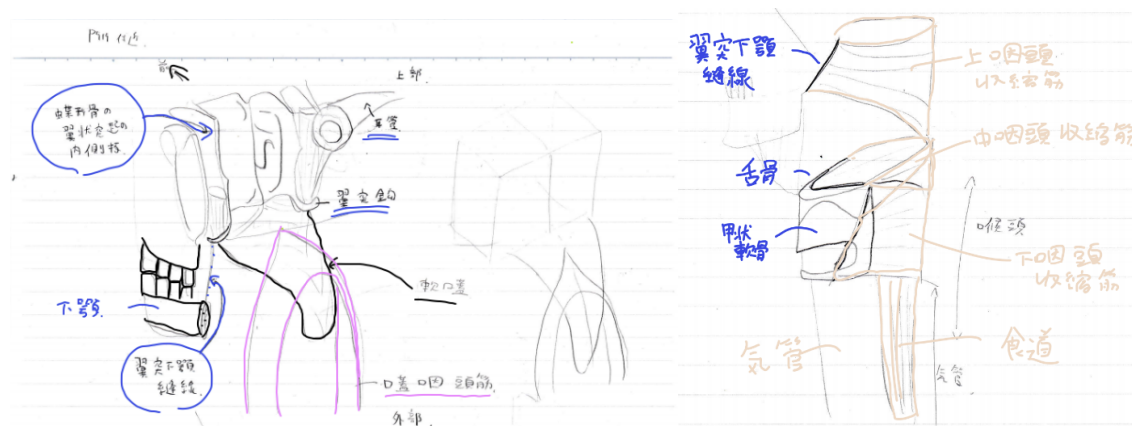
咽頭喉頭部は、喉頭の上方の入り口(喉頭口)を経て喉頭とつながっている。

咽頭喉頭部は喉頭蓋上縁から食道上端までの咽頭の部分のことである。

喉頭の中央部とその外側の甲状軟骨板との間には、梨状陥凹という溝があり、食塊や水分の通路となっている。

咽頭外部について

咽頭の外壁は上縁と前縁にいて骨、軟骨、靭帯に付着している。その様子を詳しく示す。



咽頭の上部は、蝶形骨の翼状突起内側板の後縁に付着している。この付着部のすぐ上方には耳管がある。この付着線は翼状突起の内側板の縁に沿って下方にのび、翼突鉤に達する。そこから付着線は翼突下顎縫線に沿って下顎に達し、そこで終わる。

次に、中部では舌骨に付着する。

最後に、下部の付着線は、甲状軟骨の上甲状結節から始まり、斜線に沿って下甲状結節まで下行する。

咽頭壁について

咽頭壁は骨格筋と筋膜によって構成されている。筋と筋との間にできる間隙は筋膜が補強しており、この間隙を通して血管や神経が出入りしている。

咽頭の筋はその筋線維の走行から収縮筋と縦走筋の2郡に分けられる。

収縮筋は咽頭壁を丸く囲むように存在し、縦走筋は上下方向に走っている。

参考 グレイ解剖学 原著第3版 P694,P704-P705,P712-P713,P861-P872,P905